

どうする？「あかつき」チーム

みなさんは金星という星を知っていますか。「地球と兄弟星」と呼ばれる星です。そう呼ばれる理由は、大きさが地球と同じくらいで、太陽からのきよりも似ていて、地球のすぐ内側を回っているからです。だから、金星が生まれた



ころは、地球とよく似ていたと考えられています。しかし、金星には「地球になれなかった星」というもう一つの呼び名があります。生まれたころは地球とよく似ていたはずなのに、現在の金星は、二酸化炭素がじゅうまんし、空には有毒の雲がうかんでいます。さらに、時速400m以上の強い風が吹き荒れ、じごくのような星になってしまいました。なぜ、このような星になってしまったのでしょうか。その原因が分かれば、地球が自然にあふれ美しい星になった理由や、地球温暖化の仕組みを知る手がかりになるかもしれません。そこで日本が計画したのが、金星探査機「あかつき」なのです。

何年も研究と失敗を重ね、やっとの思いで「あかつき」は、2010年5月21日、金星に向かって打ち上げられ、それから半年後、金星の近くに到達しました。しかし、「あかつき」のエンジンがこわれてしまい、金星の周りではなく、太陽の周りを回り始めてしまいました。これでは、金星について調べることができません。ようするに、今回の「あかつき」の打ち上げは失敗に終わってしまったのです。あんなに何度も研究し、準備をしてきたのに……。

「あかつき」チームのメンバーは、どうにか「あかつき」を金星の周りを回らせる方法はないか考えました。すると、6年後の金星と太陽が近づくときがチャンスだと分りました。チームのメンバーは

「何としても、再チャレンジしたい。成功させたい。」

「何年も努力してきたんだ！あきらめたくない。」

と、思いました。しかし、そのためには、次のような問題点をクリアしなければ、この計画を続ける許可がでません。

【再チャレンジすることによる問題点】

- ① 再チャレンジできるのは6年後、たった1回。失敗はゆるされない。
- ② メインエンジンは壊れているが、補助エンジンは動く。しかし、燃料がもつか分からない。
- ③ 「あかつき」は、設計した時に、4から5年は動くように考えられていた。6年以上、正常に動く保証はない。
- ④ 「あかつき」がこのまま太陽の熱に耐えられるか、分からない。
- ⑤ 研究には多額の費用がかかる。その費用には税金が使われる。

「あかつき」チームのメンバーには、日本でもトップクラスの優秀なスタッフが集められています。このメンバーなら、①から④の条件をクリアーして、「あかつき」を金星の周りにたどり着かせることができる可能性はあります。

しかし、もし成功したとしても6年以上動くように設計されていない「あかつき」はその後、正しい観測を行うことができる保証はありません。ここで「あかつき」をあきらめれば、優秀な「あかつき」のチームやスタッフは、別の計画で大きな力になれるはずです。実際、国際宇宙ステーションを活用した計画は他にもいくつもあるのです。